

2020年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

- 総評は、報告書の総評における意見、課題を抜き出して中項目に分けた。
- 2020年度報告書における意見・課題は新規課題か継続課題かを振り分け、担当している部門を明記した。新規の担当は、継続課題との関連と意見・課題の内容と部署の関連性から記載した。
- 新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

※1:2019年度の意見・課題への取り組み(年度末点検)をもとに、2020年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みの進め方を記述し、自己点検・自己評価委員会を確立。また、第1回学校関係者評価委員会に報告。

※2:中間点検は第2回学校関係者評価委員会に報告。

※3:年度末点検は第3回学校関係者評価委員会に報告。

大項目	中項目	2020年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方	中間点検	年度末点検
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法	○第一の基本方針である、TPC*の育成と強化については、各学科の特性に応じたさまざまな取り組みが工夫されて行われており、学校全体として着実に成果を上げている。入学時オリエンテーションやマナー指導・実習・学校行事などの機会を活用した授業外の指導にさらなる工夫を求めたい。 *TPC…Think(考える力)、Positive(積極性)、Communication(対話力)。本校では「社会人としての総合力」がこの3つの要素から成ると捉えている。	継続	校長	■新型コロナウイルス感染症拡大が続くなか、オンラインを併用したハイブリッド型の教育によるTPCの育成・強化について、学生目線のアクティブラーニング的な学びの方法を取り入れた指導を、各学科において新たに工夫し、試みる。	■緊急事態宣言が継続されるなか、週1日程度のオンライン授業日数が定着しつつあり、TPCの育成・強化についても、オンラインを活用した。新たな方法を取り入れた指導を、各学科で工夫している。	■後期は緊急事態宣言解除後も、一部の科目は引き続きオンラインで実施した。年明けの1月には第6波の感染拡大が見られ、定期試験前の授業を、全てオンラインに切り替えた。オンラインを併用したハイブリッド型の教育によるTPCの育成・強化に向けては、各学科・各教科系また各教員の経験とノウハウが蓄積されつつあり、科目の特性に応じた工夫も試みられている。
	1. 教育理念・目的・育人人材像	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および実習先病院訪問や医療従事者による特別講演、卒業生にご提供いただく情報とご意見を反映させ、専門分野の育人育成を推進する。	■病院事務実習は、新型コロナウイルス感染症対策を重視し、期間を短縮し、不足分はオンデマンド教材で充当した。また様々な事情により実習を実施できなかった学生は、単位分すべてを代替授業により実施した。 ■教員は実習の受け入れ依頼から事前確認、終了後の電話連絡等を通し、刻々と変わるコロナ禍の医療現場の現状を把握することができた。 ■特別講演は動画配信により実施し、学生のキャリア形成に向けて取り組んでいる。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生からの情報を学生指導に反映させやすいよう努めた。 ■1月に卒業生の就職先でもあるレセプト審査会社に来校いただき、2年生医療事務コース生を対象に特別授業を実施した。現場の情報を得る機会となった。 ■引き続き職業観の醸成を図るよう、取り組みを進めている。
1. 教育理念・目的・育人人材像	○育成人材像に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	医療マナジック科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	■病院事務実習は、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のための期間を短縮し、夏季休暇期間に各医療機関において実習を実施した。不足する単位分は、動画教材を視聴してのレポート作成により充当した。また、様々な事情により実習を実施できなかった学生は昨年年度と同様の代替授業の全てを実施した。 ■病院事務実習により、ひっ迫する現在の医療機関の現状や課題を学生自身が身をもって体験することができ、また教員も医療機関との交渉や連携を通して、医療機関から生の情報収集を行うことができた。 ■特別講演等は全て動画撮影を行い、オンラインで配信した。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生の医療従事者による講演、報告会などを通して、また兼任教員の先生方からも情報を収集し、医療業界との連携を図った。 ■実習先病院への訪問は感染防止の観点から控えたが、電話やメールを通して情報を得ることができた。
			継続	診療情報管理専攻科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	■診療情報管理実習は、新型コロナウイルス感染症対策のための期間を短縮し、5月～10月にかけて各医療機関において実施した。 ■実習期間短縮による不足時間は、5月～6月には現役診療情報管理士の卒業生数名の指導により、実際の業務内容の詳細説明および実習体験等を実施し充当した。また卒業生より情報収集を行った。 ■各関連学会はオンラインでの開催となり、担当教員が参加した。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生の医療従事者による講演、報告会などを通して、また兼任教員の先生方からも情報を収集し、医療業界との連携を図った。 ■実習先病院への訪問は感染防止の観点から控えたが、電話やメールを通して、また一部の病院ではZoomを使用したのオンライン面談による情報収集、話し合いができた。
			新規	医療事務IT科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	■特別講演等は全て動画撮影を行い、オンライン配信により実施した。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生の医療従事者による講演、報告会などを通して、また兼任教員の先生方からも情報を収集し、医療業界との連携を図った。
			新規	診療情報管理科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	■特別講演等は全て動画撮影を行い、オンライン配信により実施した。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生の医療従事者による講演、報告会などを通して、また兼任教員の先生方からも情報を収集し、医療業界との連携を図った。
			継続	くすり・調剤事務科	■定期的に関連企業、関連協会との打ち合わせを実施していく。 ■関連企業での実習実習を共同で実施して、連携を強化していく。	■関連企業とは継続的に、対面およびオンラインなどにより、求人状況、カリキュラム、インターンシップ、実習、業界動向などについて、打ち合わせを継続している。 ■オンラインによる実習実習を4日間、実施した。	■関連企業と継続して対面もしくはオンラインなどにより打ち合わせを実施し、成果をあげている。今後も継続していく。
			継続	介護福祉科	■知識と技術を実践の場で統合し、専門職としての態度や実践力を養うことができるよう関連業界や実習施設と連携していく。 ■「求められる介護福祉士像」を目指した教育と介護人材の輩出を図る。	■学び得た知識が実習で統合できるよう実習先と連携し指導にあっている。 ■関連業界と連携し、特別講義の時間を設け最新の情報を学生に伝えている。	■コロナ禍での実習受け入れ施設が限られていたが、繰り返し交渉することができた。 ■2月に特別講義が集中していたため、オンラインに変更しすべて終了した。
継続	看護科	■実習施設と実習協議会を開催し、多様な場で活躍できる看護師の育成に向けて看護教育の動向について情報共有しながら人材育成を目指す。 ■コロナ禍における学内実習状況について、臨床現場と連携し課題を共有しながら取り組んでいる。	■実習協議会・教育課程編成委員会において、改正カリキュラム案を提示し看護教育について意見をいただきたが取り組んでいる。 ■前期の臨床実習は学内における代替実習であったが学内実習の取り組みと課題を伝え後期の実習につなげている。	■実習協議会・教育課程編成委員会において改正カリキュラム案に賛同を得る事が出来、東京都の承認を得ることができた。 ■後期の臨床実習は臨床で実施したが、その新たな課題を臨床現場と共有し取り組んだ。更に新たな指導方法について年度末に向けて取り組んでいる。			
2. 学校運営	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとしている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	継続	校長	■兼任講師への働きかけに、オンラインツールの有効活用を引き続き推進する。	■兼任講師を交えた年度初め(4月8日)の全教員・学科会について、新たにオンラインでの開催を試みた。	■オンラインの活用によって、兼任講師との接点の機会を設定しやすくなっている。より緊密に連携するために、引き続きオンラインの有効活用を図りたい。
3. 教育活動	2. 教育方法・評価等 ①教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫するよう引き続き努めてほしい。 ○社会に出て、すぐに使うことのできる知識や技術も大事であるが、物事を継続してやり抜く力や、押さえられても立ち戻ることのできる力も身につけるために、専門学校での2・3年間で何ができるかを引き続き考えたい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性があると思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。	継続	校長	■卒業後も職業人として自ら学びを継続していただけるよう、学生が興味を示す科目やカリキュラムを開発し、学びの楽しさを体験する機会をより多く提供する。そのために、各学科・部署が協力し、具体的な推進を図る。	■次年度生カリキュラムの策定にあたって、広聴室等の意見も参考に、科目名や授業の内容について、学生目線・受講者目線で見ると、より魅力を感じられるよう、一部修正を加えている。	■自ら進んで学びの世界に足を踏み入れてもらうために、まずは学びの楽しさや学生の達成感を感じてもらえる機会を、教育活動の各場において、引き続き積極的に組み入れていきたい。
			継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会におけるご意見を基に、学生を医療現場で求められる人材に育てられるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。また、デジタルネイティブ世代である学生に向けた学習効果を高める教育方法を実施する。 ■専門知識・技能の習得とともに、早期からのキャリア教育・社会人化教育を推進する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2022年度入学カリキュラムの見直しを行った。また、今回は広聴室等の意見も参考に、学生目線のカリキュラム策定を意図した。マナー教育、コミュニケーション力の強化を学科の特徴として位置づけている。 ■医療機関の事務系に必要とされる資格を設け、将来的なキャリアアップ・目標を設定し、その実現のために具体的な学びができるよう指導している。	■2022年度カリキュラムについては、学校関係者委員会および教育課程編成委員会にてご意見を伺い、また、学生が現場で求められる社会人として成長できることを念頭に編成した。 ■オンラインによる授業や学生指導を、すでに日常的に実践されており、学科教育のICTスキルの習熟度は向上している。 ■学生のレジュエンス(押さえられても元に戻ることのできる力)については、共通科目として2022年度カリキュラムに組み込み、強化を図っていく。
			継続	医療マナジック科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来を描き、何のために必要なのかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にて伺ったご意見は、2021年度からスタートした医療事務IT科および診療情報管理科のカリキュラムに反映させた。 ■授業その他のあらゆる機会において、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の方からの情報を伝え、具体的な将来の目標を持ち、達成に向かって努力する指導を行っている。	■11月および3月に実施された学校関係者評価委員会では、主に教育内容全体についてのご意見を伺い、また、2月の第2回医療事務分野教育課程編成委員会においては、カリキュラムをはじめとする現在の教育内容がコロナ下において変化を余儀なくされる医療現場で求められるものと合致しているか検証するため、より具体的なご意見を伺った。今後は医療事務IT科、診療情報管理科のカリキュラム策定に活かしていく。 ■授業、講義、実習その他のあらゆる機会を通して、自分の将来の目標を意識させ、自主的に粘り強く学ぶ姿勢を継続できる力を身につける指導を行っている。特に期間は短縮されたが、今年度は大多数の学生が実際の医療現場で実習を実施し、貴重な現場経験により多くの収穫を得ることができた。
			継続	診療情報管理専攻科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会でのご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来を描き、何のために必要なのかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にて伺ったご意見は、2021年度からスタートした3年制の診療情報管理科のカリキュラムに反映させた。 ■医療情報技術能力検定試験受験のための科目を選択し、必要に応じて、またDPC関連科目の整理・統合を行い、より学習効果が高められるカリキュラムに組み替えた。 ■授業その他のあらゆる機会において、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の方からの情報を伝え、具体的な将来の目標を持ち、達成に向かって努力する指導を行っている。	■11月および3月に実施された学校関係者評価委員会では、主に教育内容全体についてのご意見を伺い、また、2月の第2回医療事務分野教育課程編成委員会においては、カリキュラムをはじめとする現在の教育内容がコロナ下において変化を余儀なくされる医療現場で求められるものと合致しているか検証するため、より具体的なご意見を伺った。今後は医療事務IT科、診療情報管理科のカリキュラム策定に活かしていく。 ■授業、講義、実習その他のあらゆる機会を通して、自分の将来の目標を意識させ、自主的に粘り強く学ぶ姿勢を継続できる力を身につける指導を行っている。特に期間は短縮されたが、今年度は大多数の学生が実際の医療現場で実習を実施し、貴重な現場経験により多くの収穫を得ることができた。

<p>新規 医療事務IT科</p>	<p>■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるような常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。</p> <p>■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なのかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。</p>	<p>■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2022年度入学生カリキュラムの見直しを行った。</p> <p>■パソコン系科目の強化を行い、ITパスポートを取得できる教科を新設し、2年次に配置した。</p> <p>■授業その他のあらゆる機会において、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の方からの情報を伝え、具体的な将来の目標を持ち、達成のための計画を立てる指導を行っている。</p>	<p>■11月および3月に実施された学校関係者評価委員会では、主に教育内容全般についてのご意見を伺い、また、2月の第2回医療事務分野教育課程編成委員会においては、カリキュラムをはじめ現在の教育内容がコロナ下において変化を余儀なくされる医療現場で求められるものと合致しているか検証するために、より具体的なご意見を伺った。今後のカリキュラム策定に活かしていく。</p> <p>■授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、自分の将来の目標を意識させ、自主的に粘り強く学ぶ姿勢を継続できる力を身につける指導を行っている。</p>
<p>新規 診療情報管理科</p>	<p>■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるような常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。</p> <p>■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なのかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。</p>	<p>■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2022年度入学生カリキュラムの見直しを行った。</p> <p>■3年制への移行に伴い、診療情報管理士育成プログラムを系統立てて配置し直し、また近年の試験出題傾向の変化に合わせて一部教科を変更し、対策を強化した。</p> <p>■医療情報技術能力検定試験受験のための科目を整理して効果的に配置し直し、強化を行った。</p> <p>■授業その他のあらゆる機会において、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の方からの情報を伝え、具体的な将来の目標を持ち、達成のための計画を立てる指導を行っている。</p>	<p>■11月および3月に実施された学校関係者評価委員会では、主に教育内容全般についてのご意見を伺い、また、2月の第2回医療事務分野教育課程編成委員会においては、カリキュラムをはじめ現在の教育内容がコロナ下において変化を余儀なくされる医療現場で求められるものと合致しているか検証するために、より具体的なご意見を伺った。今後のカリキュラム策定に活かしていく。</p> <p>■授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、自分の将来の目標を意識させ、自主的に粘り強く学ぶ姿勢を継続できる力を身につける指導を行っている。</p>
<p>継続 くりすり、調剤事務科</p>	<p>■双方向の授業方式の導入により、時にはグループ分けして、テーマを決めて討議、発表などを通して課題解決能力を身に付ける。</p> <p>■「応対の技術」などの授業内で、学んだ知識が、応対の演習を通して役立つことを理解することで、学ぶことの動機につなげていく。</p> <p>■「販売士」などの授業で、卒業後に役立つ、業務改善提案力や販売促進策(マーケティング)の提案力を身につける。</p>	<p>■2021年度第1回くりすり・調剤事務分野教育課程編成委員会にて、前回の委員会のご意見に対する報告、ならびに次年度カリキュラム内容などについてご意見を伺った。それを受けて、今後の対応を検討していく。</p>	<p>■2021年度第2回くりすり・調剤事務分野教育課程編成委員会にて、前回の委員会のご意見に対する対応の報告、ならびに第1回以降の学部の状況の説明、次年度カリキュラム内容などについてご意見を伺った。それを受けて今後、導入の検討をしていく。</p>
<p>継続 介護福祉科</p>	<p>■養成校、介護業界ともダイバーシティが進んでいる中、個々の状況を把握し支援する。</p> <p>■関連業界の動向を知り、情報収集と検証をしカリキュラムについて調整工夫をする。</p> <p>■本科生、職業訓練生、留学生と多様なクラスの中で、モチベーションの維持ができるよう支持する。</p> <p>■学生の興味、ニーズを把握し授業に反映する。</p>	<p>■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会のご意見をもとに新規科目の設置やカリキュラムの見直しを行っている。</p> <p>■多様なクラスでの個々の学習状況、理解度を確認しながら授業の見直し、改善を行っている。</p> <p>■モチベーションが維持できるよう、学生に変化があった場合は面談を行っている。</p>	<p>■ICTに関する新規科目を2022年度に開講する予定である。</p> <p>■授業の理解度は試験、課題提出で確認している。</p> <p>■学生の課題点は、兼任講師とも共有し改善を図っている。個別指導が必要な学生については、個別の学習方法を確認し指導している。</p> <p>■学生の学生生活で、変化が見られたら直ちに面談を行っている。必要時、関係部署に繋げている。</p>
<p>継続 看護科</p>	<p>■新型コロナウイルス感染症の状況を見極めつつ、実習指導者の方に校内実習へのサポートを依頼し相互の学びにつなげていく。</p> <p>■学校と施設との情報共有を密にし継続教育の充実を図っていく。</p>	<p>■前期は臨地実習がほぼ校内実習となった。医療現場で実践しにくいものがあり校内実習への協力は困難であったが、実習再開に向けてオンラインによる情報共有を行っていたが取り組んでいる。</p>	<p>■後期の臨地実習は時間短縮などの制限が生じたが臨地実習が再開でき教育効果をあげることができた。半面、指導において臨床と教育側の相互理解・連携において課題が生じる場面も見られた。本年度の評価と共に次年度の実習までに連絡調整に取り組んでいく。</p>
<p>○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立つと思われる。引き続きの取り組みが望まれる。</p>	<p>■自分の考えをアサーティブに伝えることの必要性を理解させ、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム等で自己表現力の向上を図る。</p> <p>■昨今、Webによる就職面接が広がっていることを鑑み、オンライン授業における発表形式の授業についても取り組む。</p>	<p>■2年次前期の病院事務実習指導、後期のプレゼンテーション演習、病棟コミュニケーション実習(ワークス)等、複数の教科において、発表形式の授業を取り入れている。</p> <p>■聞き手としても、多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を行っている。</p>	<p>■昨年度に続き、感染拡大防止の観点からグループワークを取り入れることは難しくなったが、オンライン授業やオンラインによるグループワーク、面談などを積極的に取り入れた。</p> <p>■1年次の社会人基礎、2年次前期の病院事務実習指導、後期のプレゼンテーション演習等、複数の教科において、発表形式の授業を取り入れている。</p>
<p>継続 医療秘書科</p>	<p>■授業だけでなく学校生活における様々な場面で、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。</p>	<p>■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。</p> <p>■「キャリアデザイン」の就職指導において、履歴書作成や面接練習の機会を通して、自身の考えを文章や言葉に表現する指導を行っている。</p>	<p>■一部の教科では発表形式を取り入れた授業が行われている。自身の考えをまとめる、他者に理解してもらえよう表現するスキルを身につけるため、様々な機会を用意し指導を行っている。</p>
<p>継続 診療情報管理専攻科</p>	<p>■管理士実習では、実習の成果をまとめて発表する機会が設けられており、病院側からのフィードバックを指導に活かしているが、継続して実施する。</p>	<p>■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。</p> <p>■「キャリアデザイン」の就職指導において、履歴書作成や面接練習の機会を通して、自身の考えを文章や言葉に表現する指導を行っている。</p> <p>■一部の授業においてはグループ毎に研究・発表が行われていたが、感染防止の観点から現状ではグループワークを制限している。</p>	<p>■一部の教科では発表形式を取り入れた授業が行われている。自身の考えをまとめる、他者に理解してもらえよう表現するスキルを身につけるため、様々な機会を用意し指導を行っている。</p>
<p>新規 医療事務IT科</p>	<p>■授業だけでなく学校生活における様々な場面で、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。</p>	<p>■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。</p>	<p>■一部の教科ではスピーチなどを取り入れた発表形式の授業が行われている。中には抵抗を感じる学生も見られるが、徐々に慣れるよう段階的な指導を行っている。現在この世代は、特に大勢の中で目立つことを避ける傾向が強く、指導は難しい。拒否されないよう無理せず進めることが肝要である。</p>
<p>新規 診療情報管理科</p>	<p>■授業だけでなく学校生活における様々な場面で、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。</p>	<p>■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。</p>	<p>■一部の教科ではスピーチなどを取り入れた発表形式の授業が行われている。中には抵抗を感じる学生も見られるが、徐々に慣れるよう段階的な指導を行っている。現在この世代は、特に大勢の中で目立つことを避ける傾向が強く、指導は難しい。拒否されないよう無理せず進めることが肝要である。</p>
<p>継続 くりすり、調剤事務科</p>	<p>■「キャリアデザイン」、「OTCのマネジメント」などの科目内で、テーマを決めて、グループまたは個人で発表させていく。継続して行い、就職活動及び就職後に役立てる。</p>	<p>■オンライン実習のなかで、グループワーク形式で就職活動に必要な専門知識や組織の中で必要とされる知識などについて討議・発表を行った。</p> <p>■2年生後期のキャリアデザインⅣ、OTC業の基本と応対技術等の授業でいままでの知識や応対技術の総仕上げをしている。</p>	<p>■2年生後期のキャリアデザインⅣ、OTC業の基本と応対技術等に授業で、いままでの知識や応対技術の総仕上げの授業を実施して、学生は卒業後の業務に役立つ知識や技術を習得できた。</p>
<p>継続 介護福祉科</p>	<p>■授業ではテーマを決め発表の機会を多くしていく。</p> <p>■発表時は、学生の特性を把握し個々に合わせ段階的に進めていく。</p>	<p>■感染予防の観点から、オンラインでの意見交換が主流となったが、グループディスカッションを設け意見を出せる機会をつくらせている。</p> <p>■ケーススタディ発表会を12月に予定している。</p>	<p>■オンライン授業内でも、発言の機会やグループディスカッションの場をつくり教育効果は得られている。</p> <p>■12月22日にケーススタディ発表会を実施した。2年生の発表に1年生が質問し双方の学びができた。</p>
<p>継続 看護科</p>	<p>■発表形式の授業を通してプレゼンテーション力を高める工夫を継続していく。</p>	<p>■感染対策として3密をさけるため、例年のような発表の機会も減少している。後期はカンファレンスなどの機会を通して他者との意見交換など意識し取り組んでいく。</p>	<p>■感染が落ち着いた時期は実習のまとめたカンファレンス発表会も行うことができた。感染拡大時期にカンファレンスにおいてもオンラインで意見交換・発表の機会を持つことができた。</p>
<p>継続 医療秘書科</p>	<p>■対面授業とオンライン授業の双方において、講義形式の授業の中にも学生の主体的な学びの要素を取り入れ、課題を主体的に解決する力を養う。</p>	<p>■現状としてソーシャリティスタンスを促す必要があり、学生同士の協同学習には制限があるが、一部の教科ではZoomのブレイクアールーム機能等を用いてグループワークを実施する際、オンライン授業の特性を生かし、参加型授業を促進している。</p>	<p>■ソーシャルディスタンスの必要性から、学生同士の協同学習には制限があったが、オンライン授業においては双方向のコミュニケーションを意識し、学生の主体的な取り組みを実施している。</p>
<p>継続 医療マナジメント科</p>	<p>■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を進める。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるような科目から取り入れる。</p>	<p>■一部の教科においては、積極的にアクティブラーニング型授業への変換を行っている。ただ聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。</p>	<p>■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への転換を行っている。特にオンライン授業においては、その特性を活かし、様々なツールを用いて双方向のコミュニケーションを意図したアクティブラーニング型授業を実施している。</p>
<p>継続 診療情報管理専攻科</p>	<p>■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を進める。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるような科目から取り入れる。</p>	<p>■一部の教科においては、積極的にアクティブラーニング型授業への変換を行っている。ただ聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。</p>	<p>■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への転換を行っている。特にアプリを使用した授業では自主的に学ぶ方法が成果を上げているため、アプリを活用する教科を増やす方向で検討している。また、オンライン授業においては、様々なツールを用いて双方向のコミュニケーションを意図したアクティブラーニング型授業を実施している。</p>
<p>新規 医療事務IT科</p>	<p>■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を進める。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるような科目から取り入れる。</p>	<p>■一部の教科においては、積極的にアクティブラーニング型授業への変換を行っている。ただ聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。</p>	<p>■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への転換を行っている。特にオンライン授業においては、その特性を活かし、様々なツールを用いて双方向のコミュニケーションを意図したアクティブラーニング型授業を実施している。</p>
<p>新規 診療情報管理科</p>	<p>■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を進める。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるような科目から取り入れる。</p>	<p>■一部の教科においては、積極的にアクティブラーニング型授業への変換を行っている。ただ聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。</p>	<p>■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への転換を行っている。特にオンライン授業においては、その特性を活かし、様々なツールを用いて双方向のコミュニケーションを意図したアクティブラーニング型授業を実施している。</p>
<p>継続 くりすり、調剤事務科</p>	<p>■授業後半に小テストを実施して、学習した内容を学生が確認しつつ、またその内容について双方向で討議することで、自分から積極的に学ぶ姿勢を身につけていく。</p>	<p>■双方向形式での授業、ならびに小テストの実施などを通して、自分から積極的に授業に参加する姿勢を身につけていく。</p>	<p>■積極的に授業内での発言が見られ、成果を確認できた。</p>
<p>継続 介護福祉科</p>	<p>■体験・調べ学習やグループディスカッション等積極的に取り入れ、主体性や対話性を養えるようアクティブラーニングへの変換を目指す。</p>	<p>■対面授業、オンライン授業双方で活用できるような演習、調べ学習、グループディスカッションを工夫しながら進めている。</p>	<p>■オンライン授業でも対面授業と同様に、対話形式、ブレイクアールームを活用したグループワークを実践し、双方向授業を行っている。</p>

	継続	看護科	■オンライン授業、対面授業双方に活用できるような視聴教材の厳選を行い、教材でのイメージ化を図りながらディスカッションを深める工夫を推進している。	■オンライン授業の工夫は模索中である。継続して検討を進めている。	■授業方法の工夫としてシミュレーション教育を取り入れアクティブラーニング型の授業を実施できた。更に思考型の授業に向けて教材を整え取り組んでいる。
○オンライン授業は教員側の作り方、機能の使いかたによって、学生の参加意識が変わってくるため、工夫することが望まれる。 ○新型コロナウイルス感染症への対応については、変化に対して革新的に、スピード感をもって対応でき、評価したい。今後は質の底上げを、より充実した教育となるようしていきたい。(2020年度総評)	新規	医療秘書科	■オンライン授業が学生の学習意欲向上を導く新たな授業スタイルとなるよう、教員は個人のスキルアップを図り、情報共有の場を持つ仕組みを整える。	■教員は昨年度、各自が急遽習得したオンライン授業の教授方法を授業公開等で共有し、積極的にスキルアップを図っている。引き続き、対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さが生きた授業展開の研究を続ける。	■教員は昨年度、各自が習得したオンライン授業の教授方法を授業公開等で共有し、積極的にスキルアップを図っている。引き続き、対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さが生きた授業展開の研究を続ける。
	新規	医療マナジメント科	■各教員が日々ブラッシュアップして、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。特に授業公開の仕組みを活用して、オンライン授業の参観を推進し、互いにその手法を教え合い共に向上している態勢を構築する。	■各教員はオンライン/対面にかかわらず、常に学生の理解度が充進する、よりわかりやすい授業を目指して、教材作成および準備を行っている。学科内はもちろんのこと、関連科目の教員同士で連携して情報交換をしながらスキルアップを図っている。	■各教員はオンライン/対面にかかわらず、常に学生の理解度が充進する、よりわかりやすい授業を目指して、教材作成および準備を行っている。学科内はもちろんのこと、関連科目の教員同士で連携して情報交換をしながらスキルアップを図っている。
	新規	診療情報管理専攻科	■各教員が日々ブラッシュアップして、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。特に授業公開の仕組みを活用して、オンライン授業の参観を推進し、互いにその手法を教え合い共に向上している態勢を構築する。	■各教員はオンライン/対面にかかわらず、常に学生の理解度が充進する、よりわかりやすい授業を目指して、教材作成および準備を行っている。学科内はもちろんのこと、関連科目の教員同士で連携して情報交換をしながらスキルアップを図っている。	■今年度は授業公開にてオンライン授業を参観する教員が大幅に増えた。他教員のオンライン授業の手法を知ること自身の授業に新しい要素を取り入れることができ、また、学生が目線で授業に参加することで自身の授業を見直すことができる。このように相互に教え合い、ともにスキルアップしている環境が構築されてきている。オンライン授業の質は確実に向上している。
	新規	医療事務IT科	■各教員が日々ブラッシュアップして、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。特に授業公開の仕組みを活用して、オンライン授業の参観を推進し、互いにその手法を教え合い共に向上している態勢を構築する。	■各教員はオンライン/対面にかかわらず、常に学生の理解度が充進する、よりわかりやすい授業を目指して、教材作成および準備を行っている。学科内はもちろんのこと、関連科目の教員同士で連携して情報交換をしながらスキルアップを図っている。	■今年度は授業公開にてオンライン授業を参観する教員が大幅に増えた。他教員のオンライン授業の手法を知ること自身の授業に新しい要素を取り入れることができ、また、学生が目線で授業に参加することで自身の授業を見直すことができる。このように相互に教え合い、ともにスキルアップしている環境が構築されてきている。オンライン授業の質は確実に向上している。
	新規	診療情報管理科	■各教員が日々ブラッシュアップして、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。特に授業公開の仕組みを活用して、オンライン授業の参観を推進し、互いにその手法を教え合い共に向上している態勢を構築する。	■各教員はオンライン/対面にかかわらず、常に学生の理解度が充進する、よりわかりやすい授業を目指して、教材作成および準備を行っている。学科内はもちろんのこと、関連科目の教員同士で連携して情報交換をしながらスキルアップを図っている。	■今年度は授業公開にてオンライン授業を参観する教員が大幅に増えた。他教員のオンライン授業の手法を知ること自身の授業に新しい要素を取り入れることができ、また、学生が目線で授業に参加することで自身の授業を見直すことができる。このように相互に教え合い、ともにスキルアップしている環境が構築されてきている。オンライン授業の質は確実に向上している。
	新規	くすり・調剤事務科	■顔出し双方向オンライン授業を基本として、オンライン授業を積極的に実施しながら、対面授業と同じ又はそれ以上の効果のある方法を、今後とも検証、改善、実施をくり返しながら、オンライン授業の質を上げていく。	■顔出し双方向オンライン授業の実施及び教員の講師へのオンライン授業のバックアップなどにより、対面授業と同等の効果もあげている。	■授業を上げている。今後も新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、オンライン授業ができる体制を整えてお。
	新規	介護福祉科	■オンライン授業ではブレイクアウトームを使ったグループワークを入れ、学生が主体的に学べるようにする。 ■対面授業と比較し質の低下、理解度の低下のないよう創意工夫した授業作りをしていく。 ■教員もオンライン授業に積極的に取り組み、毎回の授業後は検証し改善点があれば見直ししていく。 ■オンライン授業の見学、公開授業を見学し自己研鑽に努める。	■オンライン授業ではブレイクアウトームを使ったグループワークを入れ、学生が主体的に学べるようにしている。 ■教員はオンライン授業後の課題提出等で理解度の確認や振り返りを行っている。 ■オンライン授業でのトラブルがあった際には、情報共有し改善に努めている。	■技術科目以外は、専任・兼任講師ともにオンラインでの授業に取り組んでいる。教員それぞれの課題は情報共有し、向上に努めている。 ■対面授業との差異がないようオンライン授業のスキルアップに努めている。
	新規	看護科	■オンライン授業の導入に向けて学生が不安なく導入できるように目指しオンライン授業の効果と講師と共に見極めつつ取り組んでいく。	■一部の授業をオンラインの授業で実践することができた。学生・外部講師共にほぼ問題なく導入できた。今後の取り組みについては継続して協議しながら取り組んでいく。	■学生もオンライン授業に関するトラブルの発生もなく進めることができた。感染拡大時期においては外部講師の協力も進みオンライン授業への取り組みが出来ている。
	新規	教務委員会	■授業公開においてオンライン授業も公開の対象とし、各教員のオンライン授業におけるノウハウを共有することにより、対面と併用したハイブリッド型授業の効果を高める。 ■教育研究において新型コロナウイルス感染症対策下での教育のあり方に関する原稿を募り、各教員の対応を共有する。	■授業公開を今年度は通年で実施している。 ■教育研究において新型コロナウイルス感染症対策下での教育のあり方に関する項目を盛り込み、原稿を募っている。	■授業公開を今年度は通年で実施している。 ■教育研究において、新型コロナウイルス感染症対策下での教育のあり方に関する原稿が9件寄せられた。3月上旬に刊行を予定している。
○新型コロナウイルス感染症が学校運営に大きな影響を及ぼす中で、フレキシブルに対応したことを高く評価する。今回得たノウハウを、学生・教職員にとって有益な形で見学していきたい。(2020年度総評)	新規	校長	■オンライン授業を円滑に実施するための校内インフラを引き続き整備するとともに、対面と併用したハイブリッド型授業の効果的な運営のノウハウを共有していきたい。	■緊急事態宣言下で週1日のオンライン授業が定着しつつあり、その中でハイブリッド型授業の経験とノウハウについても蓄積されている。	■オンラインを併用したハイブリッド型の教育は、経験とノウハウが蓄積されつつあり、科目の特性に応じた工夫も試みられている。次年度に向けては、オンライン授業のための専用設備拡充を予定である。
	新規	医療秘書科	※前と同じ		
	新規	医療マナジメント科	※前と同じ		
	新規	診療情報管理専攻科	※前と同じ		
	新規	医療事務IT科	※前と同じ		
	新規	診療情報管理科	※前と同じ		
	新規	くすり・調剤事務科	■新型コロナウイルス感染症が深刻な状態下では、オンライン授業を週2〜3日を基本として、クラスター発生を最小にする体制でのぞみながら、新型コロナウイルス感染症の状況変化にあわせて、対面授業との比率を変えて、両者のバランスをとりながら授業を実施していく。	※前と同じ	※前と同じ
	新規	介護福祉科	※前と同じ		
	新規	看護科	※前と同じ		
	新規	総務課	■オンライン授業等が円滑に行えるための通信環境の整備を引き続き行っている。	■9月に工事を行った。全教室にFree Wi-Fi、有線接続口を配備した。年度内には配信室を設置する予定である。	■9月に全教室のFree Wi-Fi、有線接続口を配備した。また、9月に配信室を設置した。
	新規	学務課	■新型コロナウイルスの感染防止対策について、校内でより一層気を引き締め、自宅での検温、手洗い、アルコール消毒、教室内の換気などの徹底、そして昼食時の放送や巡回などを地道に取り組んでいく。	■感染拡大防止対策について、Gメールやポータルサイトで学生に周知している。また、教職員による玄関での朝の検温、基の巡回を行っている。昼食時の放送については、感染状況に合わせて適宜内容を見直ししている。	■感染拡大防止対策について、Gメールやポータルサイトで学生に周知している。また、教職員による玄関での朝の検温、基の巡回を行った。昼食時の放送については、感染状況に合わせて適宜内容を見直ししている。
	新規	CSC	■2020年度は、キャリアサポートプログラムの内容にオンライン指導できる動画を取り入れたり、内定者や卒業生の報告会または関係者講演等を収録しオンライン配信して分た。今後もこの取り組みを進めていく。	■キャリアサポートプログラムの内容のオンライン化を一層進めている。そのオンラインの内容もより学生にとって分かりやすい内容とするよう取り組んでいる。	■キャリアサポートプログラムの内容のオンライン化を一層進めている。そのオンラインの内容も動画を取り入れる等より学生にとって分かりやすい内容とするよう取り組んでいる。
	新規	広報室	■来校型オープンキャンパスでは換気、ソーシャルディスタンス、肌・商品の除菌、消毒液の設置、体温測定、マスク・フェイスシールドの着用、人数制限を設けるなど、安心・安全な開催を周知するとともに、並行して複数のオンライン型を実施し、参加者を分散させ感染リスクを抑えつつ、遠方の受験生などにも対応してきた。引き続きこれらに取り組んでいく。	■来校型オープンキャンパスでは様々な感染防止対策を行い、安心・安全な開催を周知している。並行して行っているオンライン型では、参加者の分散による感染リスクを抑えつつ、遠方の受験生などにも対応している。	■来校型オープンキャンパスでは、徹底した感染対策を行い、安心・安全に参加できる環境を整えて実施した。同時に、参加者の分散による感染リスクを抑え、遠方の受験生などにも対応できるオンライン型を開催した。
	新規	教務委員会	※前と同じ		
	新規	学生委員会	■新型コロナウイルス感染症禍での生活に慣れてしまいう前に学生委員会メールを活用した注意喚起を行う。	■学務課が学生向けに注意喚起のメールを送信しているため、学生委員会メールでの注意喚起は行ってない。朝の検温当番および昼食時の巡回当番について、学務課と共同で取り組んでいる。	■学務課が学生向けに注意喚起のメールを送信しているため、学生委員会メールでの注意喚起は行わなかった。朝の検温当番および昼食時の巡回当番を教職員の輪番で実施した。
○教育課程について、外部の意見を反映しているか ○カリキュラムの編成は、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会以外の、外部関係者の声も積極的に取り入れる仕組みを作っているか	継続	医療秘書科	■業界出身の兼任講師や卒業生、就職先医療機関との連携を図る。 ■カリキュラム編成については、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会および、校内の他部署(企画室、広報室)とも意見交換を行い、学生目線を意識した内容になるよう取り組む。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。
	新規	医療事務科	■カリキュラム編成については、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会および、校内の他部署(企画室、広報室、学務課、CSO)とも意見交換を行い、入学対象者のニーズに即した内容になるよう取り組む。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集し、カリキュラムに反映させている。
	継続	医療マナジメント科	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多様な立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集し、カリキュラムや授業内容などの教育内容に反映させている。

		継続	診療情報管理専攻科	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多種多様の立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集し、カリキュラムや授業内容などの教育内容に反映させている。
		新規	医療事務IT科	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多種多様の立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集し、カリキュラムや授業内容などの教育内容に反映させている。
		新規	診療情報管理科	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関とは常に情報交換し、収集した情報をカリキュラムに反映させる。 ■カリキュラム編成に際しては、多種多様の立場の方からより多くの意見を収集するよう努める。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集している。	■業界出身の兼任講師、卒業生や就職先医療機関関係者とは常に情報交換し、情報を収集し、カリキュラムや授業内容などの教育内容に反映させている。
		継続	くすり・調剤事務科	■定期的に業界、協会と打ち合わせを実施し、年1回のホームカンパニーなどで卒業生からの意見収集を実施。業界出身の兼任講師と常に情報交換を実施して、求められているカリキュラム情報を入力しながら、導入を検討していく。	■本年度もオンラインによるホームカンパニー参加の申し込みがなく、開催が叶わなかった。 ■関連企業との対面およびオンラインによる打ち合わせを通して、カリキュラム情報を継続して入手している。	■来年度のホームカンパニーの開催は、4月頃の新型コロナウイルス感染症状況で開催方法を検討する。 ■継続して、関連企業と対面もしくはオンライン等の方法でカリキュラム情報を入手し、成果を上げている。今後も同様の方法で継続していく。
		継続	介護福祉科	■業界出身講師や卒業生の協力を得て、カリキュラムに反映していく。 ■関連企業による特別授業を継続していく。 ■カリキュラム編成には、教育課程編成委員会のみではなく、外部関係者、実習施設指導者等の意見も聴取を検討していく。	■業界出身の講師や卒業生が来校した時は、情報収集に努めている。 ■5月に在宅介護に関する特別講義を実施した。後期も関連企業による特別講義の実施を予定している。	■業界出身の講師との情報交換の機会はげられなかったが、卒業生にはオープンキャンパスに参加していただいた際に、情報収集をしている。 ■関連企業による特別講義はオンラインで実施した。 ■業界内の研修に参加し、最新の情報を入手できる機会をつかった。
		継続	看護科	■卒業生や業界出身の兼任講師、関連医療機関との情報共有は密に行い、技術項目などは残すべき内容と変えるべき内容の検討を常に行っていく。	■改正カリキュラムに向けて教育課程編成委員会等での意見収集しながら準備を進めている。授業においては医療従事者に参加してもらい最新機器を紹介してもいい取り組みを行っている。	■教育課程編成委員会と本科の考え方を示し、新カリキュラムへの賛同を得ることができた。今後はカリキュラム運営を示しながら更に進めていく。授業において医療従事者の協力により臨床機器を紹介し治療を受ける患者のイメージや理解につなげることができた。
		継続	CSC	■実習や就職実績のある病院への訪問や就職模擬面接会での聞き取り結果を、キャリアサポートプログラムの日程や内容に生かすよう取り組んでいる。また卒業生の声も卒業生キャリア報告会や日頃の学校への訪問したもののアンケートを通じての聞き取りを行い、意見を聞いている。これらを引き続き行っていく。	■実習や就職模擬面接会が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に縮小や中止となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じた聞き取りを行っていく。	■今年度、実習や就職模擬面接会が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に縮小や中止となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じた聞き取りを行っていく。
4) 授業評価を実施しているか	○アンケート結果をより有効に活用するため、定期的な見直しにおいて、必要な改善を進めている。	継続	点検委員会	■2023年度の定期改定に向け、意見がある場合には聴取する。至急の修正が必要と判断される場合は対応を自己点検・自己評価委員会で行っている。	■現在のところ、至急の修正を必要とする事はない。2023年度の定期改定に向け、2022年度に見直す予定である。	■至急の修正を必要とする事はない。2023年度の定期改定に向け、2022年度に自己点検・自己評価委員会で見直す。
4 資格・免許の取得の指導体制	○国家試験を受験する学科においては、受験資格の要件を明確に説明して指導を行っている。引き続き試験問題の傾向に合わせた指導に期待している。	継続	介護福祉科	■引き続き、国家試験についての説明会、国家試験対策講座を実施していく。 ■1年次より模擬試験を受験し個別にデータ化し指導に役立てるとともに2年次の介護福祉ゼミでは領域別指導を継続していく。	■国家試験説明会はオンラインで実施した。国家試験対策講座は講師と調整中である。 ■模擬試験の結果はデータ化し指導を行っている。	■国家試験対策講座は外部講師に依頼し、オンラインで実施した。 ■1年生の国家試験対策講座は、感染予防の観点から学生の登校を控え、オンラインで実施した。2年生は1月30日に国家試験を受験した。
		継続	看護科	■看護師養成所の卒業判定をもって、国家試験受験資格が得られることを入学時オリエンテーションで説明する。 ■卒業要件としての単位修得に関わる内容は学生ガイドに記載し、学年が進むと、また、単位の履修状況発生時に随時学生及び保護者に説明し保護者と連携しながら取り組んでいる。 ■国家試験対策としては、1年次、2年次は低学年の模擬試験を実施。3年次には少人数のサポート体制をとって指導を行う。新型コロナウイルス感染症における新たな国家試験対策を検討していく。	■業者の国家試験対策はオンライン等を活用しながら取り組んでいる。 ■3年生の国家試験対策に関しては、審を避けるためOHなどを活用したクラス全体での国家試験対策が困難であったが、業者の模擬試験結果を踏まえ学習サポートに取り組んでいる。	■外部講師に国家試験対策に協力を得ることができた。残念ながら感染予防対策のため登校見合わせとなったが試験対策の資料を提供してもらい取り組むことができた。 ■新型コロナウイルス感染症の感染予防対策により例年の国家試験対策や個別の学習支援を中止するなど支援もままならない状況があった中で、リモートやメール、グループラインの活用などを確保して取り組んだ。受験日1か月前から試験を見合わせ感染予防を優先し取り組む全員受験ができた。 ■学習支援の方法において教員の手作り対策だけでなく学習ツールなど学生自ら取り組めるシステムの検討が課題であり、今後学科教員会で検討していく。
5.教員・教員組織 (2)教員の資質向上への取組	○授業公開は、兼任講師の参加について、さらなる拡大を期待している。	継続	教務委員会	■2021年度の授業公開は通年において実施し、対面授業のほか、オンライン授業も公開の対象としている。より多くの兼任教員に参加いただくよう適宜参加を促していく。	■授業公開を今年度は通年で実施している。	■授業公開を今年度は通年で実施している。
	○新型コロナウイルス感染症の中で、オンラインと対面のハイブリッド型で授業を進めていくと懸念されるが、オンラインを促して授業をいかに工夫するかが大事なポイントである。その工夫は授業公開等でも共有し、学校全体が一丸にならなければならないことに期待している。	新規	校長	■オンライン授業を含む、授業公開の期間を通年に拡大した。そのなかで、効果的な授業運営の方法や工夫を、教員間で共有していきたい。	■今年度は動画視聴による授業公開も可し、オンライン授業のインストラクションスキル向上のため、教員間でノウハウを共有できる機会を提供している。	■オンライン授業のインストラクションスキル向上とノウハウ共有のため、今年度は専任系授業計画検討部会において動画教材の作成と検討が行われた。オンライン授業の公開については、次年度も予定している。
		新規	教務委員会	■授業公開においてオンライン授業も公開の対象とし、各教員のオンライン授業におけるノウハウを共有することで、インストラクションスキルを向上させていく。	■授業公開を今年度は通年で実施している。	■授業公開を今年度は通年で実施している。
5.教員・教員組織 (3)教員の組織体制の整備	○専任教員と兼任講師の連携においては、オンラインも活用することを検討してほしい。	新規	校長	■年度初めの全教員会・科会について、新たにオンラインでの開催を試みることにした。	■兼任講師も参加しやすいよう、年度初めの全教員会と各学科の科会について、オンラインで開催した。	■年度初めの全教員会・科会は、オンラインでの開催で兼任講師の参加者が増えたこともあり、次年度もオンラインでの開催を予定したい。
		新規	医療秘書科	■専任教員と兼任講師の連携については、学科会議をはじめ、打ち合わせにおいてもオンラインを積極的に活用していく。 ■学生への課題提示やオンデマンド教材の配信についても、専任教員と兼任講師とで連携し、学生にとって利用しやすい環境整備に取り組む。	■年初の学科会議をオンラインで開催した。複数学科兼任講師の方にも多数参加していただき、コロナ禍においてはこの形式が有効であった。 ■兼任講師の方々は、ご出講時に打ち合わせや情報交換を積極的に行いコミュニケーションを図っている。また本年度は週1回のオンライン授業日を設けているため、同じ曜日を担当する専任教員や講師間の連携を進めている。	■専任教員と兼任教員の方々は日常的に、対面及びメール、Zoomでのコミュニケーションが図れている。 ■コロナウイルス第6波の影響により、後期は定期試験を含む最後の2週間をオンライン授業に切り替えることが余儀なくされたが、教職員が連携し、GoogleクラスルームやGoogleドライブを活用し教育活動は支障なく行われた。
		新規	医療マシナリ科	■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前との対面での授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。	■学科教員会はオンラインでの開催となったが、対面実施時より多くの参加をいただいた。 ■兼任教員の先生方は日常的に対面やメールでの密なコミュニケーションを意識して行っている。授業の際にできるだけ声かけを行い、意思疎通、情報共有を図っている。	■兼任教員の先生方は日常的に、対面のほかメールや電話、Zoomでのコミュニケーションが図れている。必要に応じてGoogleクラスルーム、ドライブも活用している。オンラインを活用した連携は確実に進みつつある。
		新規	診療情報管理専攻科	■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前との対面での授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。	■学科教員会はオンラインでの開催となったが、対面実施時より多くの参加をいただいた。 ■兼任教員の先生方は日常的に対面やメールでの密なコミュニケーションを意識して行っている。授業の際にできるだけ声かけを行い、意思疎通、情報共有を図っている。	■兼任教員の先生方は日常的に、対面のほかメールや電話、Zoomでのコミュニケーションが図れている。必要に応じてGoogleクラスルーム、ドライブも活用している。オンラインを活用した連携は確実に進みつつある。
		新規	診療情報管理科	■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。従前との対面での授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。	■学科教員会はオンラインでの開催となったが、対面実施時より多くの参加をいただいた。 ■兼任教員の先生方は日常的に対面やメールでの密なコミュニケーションを意識して行っている。授業の際にできるだけ声かけを行い、意思疎通、情報共有を図っている。	■兼任教員の先生方は日常的に、対面のほかメールや電話、Zoomでのコミュニケーションが図れている。必要に応じてGoogleクラスルーム、ドライブも活用している。オンラインを活用した連携は確実に進みつつある。
		新規	くすり・調剤事務科	■専任教員と兼任講師の間ではGメールを利用して、逐次情報を発信したり、情報交換を実施したりしている。オンラインの活用を今後より広げていく。	■専任教員と兼任講師の間で、Gメールなどを活用して、逐次情報を発信したり、意見交換を実施できている。	■成果を上げている。今後も同じ方法で継続していく。
		新規	介護福祉科	■学科教員会はオンラインで実施した。今後も、オンラインやGメール、ドライブを活用し兼任講師とも情報の共有を図る。	■兼任講師とはGメールやGoogleドライブを活用し、情報の共有を図っている。	■兼任講師との情報交換や連絡は、GメールやGoogleドライブを活用し随時行うことができた。 ■講師との打ち合わせをオンラインで行うことで、双方の移動や時間が有効に使うことができた。

			新規	看護科	<p>■年度当初の学科教員会はオンラインで実施した。初回講義の際に担任が学年の状況を伝えること、授業期間中に学生から講師への要望・講師の授業時における学生の様子などを情報共有することを継続する。</p> <p>■オンライン授業対応可能な講師の把握を行い、来校・自宅配信など柔軟に対応して取り組んでいる。</p>	<p>■授業に限らず、実習指導者との会議等もオンラインで開催し情報交換や学生との交流も図るよう取り組めた。お話し時間の節約にもなり効果的であったため、今後も継続して実施していく。</p>	<p>■授業における講師との情報共有は対面で行うことができない状況下において、オンラインでの会議はほぼオンラインであった。協議が必要な場合、十分に意見交換がしにくいという要望もあったため、会議内容により方法を検討している。</p>	
4	学修成果	2. 資格、免許の取得率	継続	校長	<p>■昨年度は上半期に中止となった検定もあったが、資格・検定の取得においては全額に良好な結果が出た。オンラインでも活用して、引き続き各学科で着実に取り組んでいく。</p>	<p>■各学科・教科系で、オンラインも活用した指導のノウハウの向上と蓄積について、引き続き取り組んでいる。</p>	<p>■コロナ禍のなかで、オンラインを有効活用した指導ノウハウの蓄積が順調に進んでおり、次年度も引き続きノウハウの蓄積・検定取得指導の向上に取り組んでいきたい。</p>	
				継続	医療秘書科	<p>■学科運営計画に示した卒業時検定合格者の達成に向け、一部科目については進捗別クラス編成を継続する。また2年次後期の検定にも挑戦できる科目配置にしているため、検定上位級と医師事務作業補助者の受験者数を増やし、伸びしろのない指導に努める。</p>	<p>■6月の検定試験、7月の診療報酬請求事務能力認定試験は前年通り習熟度別クラスを設定し、想定した成績を収めることができた。</p> <p>■医師事務作業補助技能認定試験は9月以降の受験に向け、指導を進めている。</p> <p>■6月の秘書検定は3級合格者が例年並み、準1級は筆記試験合格者に面接対策講座を実施し、過去最高となる合格率収めた。</p>	<p>■資格取得は、好成績を収めた。</p> <p>■医師事務作業補助技能認定試験はコース選択者が受験し、高い合格率を収めた。</p>
				継続	医療マシナリ科	<p>■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界一歩の高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。</p>	<p>■6月の検定試験、7月の診療報酬請求事務能力認定試験は対策を強化したことにより、好成績を収めることができた。</p> <p>■医師事務作業補助技能認定試験については、前期履修のクラスは大多数が9月に受験し、今までで最多の合格者数を記録した。</p>	<p>■各検定試験、認定試験の取得率は好調であった前年度とほぼ同様的好成绩を収めることができた。</p> <p>■医師事務作業補助技能認定試験は在宅受験となった。取得率は大幅に向上した。</p> <p>■医療情報技術基礎知識検定試験は高い合格率を挙げた。</p>
				継続	診療情報管理専攻科	<p>■診療情報管理士試験合格者を高めるための対策を強化する。また、併せてがん登録業務初級者認定試験、医療情報技術能力検定試験の取得率増加を目指し、必要な対策を実施する。</p>	<p>■診療情報管理士試験専門領域に関しては、一部の授業はオンラインで実施し、その後専用アプリで復習することにより、復習回数を増やし復習の学習効果が確保されている。アプリは常時更新され、またが登録し、アプリの活用が進み、一層の充実が図られている。</p> <p>■前回模範試験を実施し、また模範試験受験後は個人毎に成績詳細レポートを配布し、自らの課題を自覚して学習に取り組めるよう自己管理を促している。</p>	<p>■診療情報管理士試験受験準備として、頻回の模範試験が実施されており、都度担当教員による結果分析、弱点的な克服法をきめ細やかな指導が行われている。これらの指導も双方オンラインシステムが有効に活用されている。</p> <p>■初年度となった医療情報技術能力検定試験は受験者が少なかった。領域により得意、不得意が分かれたため、次年度以降は学習内容の調整を行い修正する。</p> <p>■1月に実施されたがん登録業務初級者認定試験は高い合格率を挙げた。</p>
				新規	医療事務IT科	<p>■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界一歩の高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。</p>	<p>■6月の医療秘書検定試験は対策を強化したことが実り、設定した目標以上の合格率を達成した。3級に関しては昨年度を上回る高い合格率を上げ、特にシレフト作成を行う領域では100%の合格率となった。</p>	<p>■各検定試験、認定試験の取得率は好調であった前年度とほぼ同様、また一部は上回る好成绩を収めることができた。</p>
				新規	診療情報管理科	<p>■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界一歩の高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。</p>	<p>■6月の医療秘書検定試験は対策を強化したことが実り、設定した目標以上の合格率を達成した。3級に関しては昨年度を上回る高い合格率を上げ、特にシレフト作成を行う領域では100%の合格率となった。</p>	<p>■各検定試験、認定試験の取得率は好調であった前年度とほぼ同様、また一部は上回る好成绩を収めることができた。</p>
				継続	くすり調剤事務科	<p>■資格・検定合格に重要な科目については、学生の苦手な部分、わかりにくい部分を補助的に教える科目をつくり、遠くから説明しても、さらに学習問題を解くことにより、より理解していない箇所をなくしながら、学生の苦手意識を払しょくして、より自信を深めることで資格・検定の合格率向上に役立てていく。</p>	<p>■資格・検定合格に重要な科目を補助的に教える科目(病気とヘルスケア、漢方の知識、医薬品応用(演習))の実施を通して、より理解を深めることにより、検定合格者の向上を期待している。(効果は年度末の資格合格率で検証していく)</p>	<p>■東京都登録販売者試験の学科の合格率が、一定の効果を上回っている。来年度は、さらに合格率を上げるために、5月までに2023年度カリキュラム作成を実施していく。</p>
				継続	介護福祉科	<p>■在学中の国家試験合格を目標に指導していく。</p> <p>■個別指導をし弱点強化を図る。</p> <p>■介護事務管理士技能認定試験(任意)へのチャレンジを促す。</p> <p>■レクリエーション介護士2級の全員取得を目指す。</p>	<p>■模範試験結果をもとに個別に面談し、受験勉強の方法や弱点対策への取り組み方を指導している。</p> <p>■11月の介護事務管理士技能認定試験(任意)を目指している。</p> <p>■レクリエーション介護士2級を全員が取得した。</p>	<p>■国家試験に向けた授業(介護福祉ゼミII)をオンラインで実施した。適宜学生とはメールでのやり取りができるようになった。習熟度の把握、メンタル面のサポートは難しさがあつた。</p>
				継続	看護科	<p>■国家試験合格者の全国平均以上を維持するため、教員間の連携を図り取り組んでいる。</p> <p>■定期的な担任会議を開催し、1年次からの取り組みで強化、工夫すべきところをまとめ、学科教員会議で専任教員への周知を図る。</p>	<p>■模範試験結果をもとに活用しながら学生の学習状況を把握しながら取り組んでいるが、例年のような臨時実習による学習割増が少なく、学習のモチベーション維持の困難さを危惧している。</p>	<p>■模範試験結果により学習支援者を選出し個別にサポートを行い取り組んだ。しかし、模範試験の欠席、サポートが難しい学生もおり今後の取り組みへの課題と考えている。担任会を中心に学習支援の統括に取り組む。</p>
				9. 卒業生の社会的評価		<p>○職業実践教育の効果については、様々な機会を捉えて意見聴取やアンケートを行っているが、卒業生や就職先等の評価を確認するための学校全体としての調査方法を引き続き検討し、実践することが望まれる。特に、卒業後3年目ぐらいまでの動向を継続的に調査する方法を考えてほしい。</p> <p>○卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、Gメールによる調査を進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。</p>	<p>■校内の学事システムの統一化を検討するプロジェクトが新たに発足したため、そちらの情報共有システム導入の動きとも連携したいと考えている。</p>	<p>■実習関連データと就職関連データの統合を推進するプロジェクトを立ち上げ、各学科・GSCが中心となり、それらのデータの収集・整理・分析方法について確立を試みたい。</p>
5	学生支援	1. 就職等進路	継続	校長	<p>■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。</p> <p>■またGメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を進める。</p>	<p>■実習や就職模範面接が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に縮小や中止となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っている。</p> <p>■Gメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を年度末に向け進める。</p>	<p>■今年度、実習や就職模範面接が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に縮小や中止となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っている。</p> <p>■Gメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を進める。</p>	
			継続	CSC	<p>■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っている。</p> <p>■今後調査方法の検討やGメールの卒業後の使用方法についても周知していく。</p>	<p>■実習や就職模範面接が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に縮小や中止となり聞き取りが出来ていない。年度末にかけて就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っている。</p> <p>■Gメールを活用してのより効率的な調査方法の検討を年度末に向け進める。</p>	<p>■Gメールの卒業後の使用方法については、今年度周知できたと考えていて今後も引き続き検討していく。</p>	
			継続	CSC	<p>○卒業生は、就職先において高く評価され、多くの信頼を得ているが、職業実践教育の評価の観点からも、就業動向の定期的な把握が必要であり、訪問、面談をはじめ、Gメールによる調査を進めて、引き続き状況把握に努めてほしい。</p> <p>○キャリアサポートセンターは学生の就職指導・活動支援に直接かかわるものであることから、引き続き担当職員のスモールアップを進めてほしい。</p>	<p>■今年度も実績ある病院と連携し、求人および採用をいたくすることができた。</p> <p>■今年度も進路指導委員会と連携し、病院実習やインターンシップといった重要な課題について、改編を目指している。インターンシップは昨年度に引き続き春期1月開始とした。</p> <p>■国家資格キャリアコンサルタントについて、継続学習を行っている。</p>	<p>■今年度も実績ある病院と連携し、求人および採用をいたくすることができた。</p> <p>■今年度も進路指導委員会について、継続学習を行っている。更新を行った。</p>	
			新規	CSC	<p>○新型コロナウイルス感染症による社会状況の変化により、企業等ではウェブ面接の導入が進み、メイトも感じている。対面の面接とは伝え方や感じ方が異なるため、授業等において指導を取り入れてほしい。</p>	<p>■ウェブ面接について、授業においてプログラムを設け、注意点や実施にあたってのポイントを指導した。また希望者に対し、個別でウェブの模範面接も行っていった。</p>	<p>■ウェブ面接について、授業においてプログラムを設け、注意点や実施にあたってのポイントを指導した。また希望者に対し、個別でウェブの模範面接も行っていった。</p>	
2. 中途退学への対応		<p>○入試区分や入学動機の強弱、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的に、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。</p> <p>○表れた兆候への早めの対応、指導が大切であることから、事前の兆候を掴むための積極的なコミュニケーションの工夫も進めてほしい。</p> <p>○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のスママツを防止することが最も大きな要因になると思われることから、オープンキャンパスにおいては、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを、引き続き工夫してほしい。</p>	<p>■再編した医療事務分野の学科間においては、学びのスママツによる退学を防止する対策の一つとして、2年次への進級に際し、相互に転科が可能な仕組みを作った。</p> <p>■退学防止調査票「退学者」学籍異動の記録を活用した事例研究、担任との退学防止の意見交換会、引き続き学生委員会を中心に実施し、防ぐことができる退学については、早めの対応で極力防ぐ対策を一層強化していく。</p>	<p>■8月末までの退学・除籍者は、昨年度同様、コロナ禍のなかで減少傾向にある。「退学防止調査票」「退学者」学籍異動の記録を活用した事例研究は、引き続き学生委員会を中心に実施している。</p>	<p>■コロナ禍のなか、その前の年に比べ大幅に減少した昨年度の同時期よりも、さらに減少している。学生委員会を中心とした事例研究は次年度も継続したい。</p>			

	<p>○入試区分や入学動機、入学後の学習や学活生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めてほしい。</p>	<p>継続 学生委員会</p>	<p>■退学の兆候がある学生を早期に把握することが目的の退学防止調査表を作成し2017年度から実施しており、2021年度も継続して実施する。各担任に前期中・後期に2回、中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等をまとめてもらい、学生委員会が確認する。把握した退学の兆候を学科長にフィードバックし、各学科で退学を防ぐ方法を検討することにつなげる。</p>	<p>■1年生の担任に前期中・後期、中途退学の要因、傾向、退学者数等をまとめてもらい、学生委員会にてデータの集計と分析を行った。把握した退学の兆候を学科長に報告し、その後各学科で退学を防ぐ方法を検討することに活用してもらった予定である。</p>	<p>■1年生の担任に前期中・後期、中途退学の要因、傾向、退学者数等をまとめてもらい、学生委員会にてデータの集計と分析を行った。把握した退学の兆候を学科長に報告し、その後各学科で退学を防ぐ方法を検討することに活用してもらった予定である。</p> <p>■2月に開催予定であった1年生の担任による意見交換会は退学防止が困難な事由での退学が多かったため中止した。</p>
<p>○AO入試による入学予定者への入学前指導プログラムの効果に引き続き期待している。</p>	<p>継続 校長</p> <p>継続 医療秘書科</p> <p>新規 医療事務科</p> <p>新規 医療事務IT科</p> <p>新規 診療情報管理科</p> <p>継続 くすり・調剤事務科</p> <p>継続 介護福祉科</p> <p>継続 看護科</p>	<p>■昨年度末に実施を予定していた入学前オリエンテーションは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、やむなく中止となったが、対象となる入学予定者の範囲をさらに拡大し、今年度も実施を図りたい。</p> <p>■2021年度入学生への入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。2022年度生に対しては、実施の方向で準備を進めていく。</p> <p>■医療事務科の入学生を入学前指導プログラム対象とするかどうかを、関連部署と検討する。</p> <p>■2021年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。2022年度入学生に対しての同プログラムは実施を想定し、必要な準備を進める。</p> <p>■2021年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。2022年度入学生に対しての同プログラムは実施を想定し、必要な準備を進める。</p> <p>■新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、この2年間は中止となった。今後、開催される場合は、学科としても積極的に参加して、その効果を検証していく。</p> <p>■2021年度入学前指導プログラムは新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となった。2022年度入学前指導プログラムは介護への導入に繋がるよう準備を進めていく。</p> <p>■新型コロナウイルス感染防止のため2020・21年度入学生へのプログラムは中止となった。2022年度生に対しては実施の方向で準備を進めていく。</p>	<p>■現時点で、年明けに入学前オリエンテーションの開催を予定している。</p> <p>■2022年度入学生に対しては、時間短縮、二部制等、感染対策を重視したプログラム内容を教務委員会とともに検討している。</p> <p>■医療事務科の開催が決定し、入学生を入学前指導プログラム対象とするかどうかを検討している。</p> <p>■2022年度入学生に対しては、時間を短縮し、午前と午後との2部制にする等、感染防止対策を十分講じたうえで、入学前指導プログラムを実施すべく準備に入っている。構構については、2019年度入学生に対して実施した内容に準じている。</p> <p>■開催された場合は、学科としても積極的に参加して、その効果を検証していく。</p> <p>■2022年度入学前指導プログラム実施に向け内容を検討中。</p> <p>■2022年度生の実施に向けて準備中である。</p>	<p>■新たに1年制の医療事務科の入学生も対象に加え、午前と午後に分けて開催した。</p> <p>■2022年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、時間を短縮し、二部制等、感染対策を重視したプログラム内容とした。</p> <p>■医療事務科の入学前指導プログラムは、他学科と別プログラムで実施することになった。1年制という学科の特徴を踏まえ、新学期の授業をよりスムーズにスタートできることを目的とする。入学生全員に対し、新入生オリエンテーションを前倒しした内容での実施に向け準備を進めている。</p> <p>■2022年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、時間を短縮し、感染防止対策を十分講じたうえで実施した。</p> <p>■2022年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、時間を短縮し、感染防止対策を十分講じたうえで実施した。</p> <p>■開催効果は6月末までに検証する。</p> <p>■入学前指導プログラムにおいて、介護に対するイメージと動機づけができるよう進めている。</p>	<p>■2022年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、時間を短縮し、感染防止対策を十分講じたうえで実施した。</p> <p>■2022年度入学生に対しての入学前指導プログラムは、時間を短縮し、感染防止対策を十分講じたうえで実施した。</p> <p>■2022年度入学生の実施に向けて準備中である。</p> <p>■現1年生と協力し入学後の学習に興味を持てる内容を計画している。</p>
<p>○退学の防止については、分析や対策は勿論だが、入学時のミスマッチを防ぐことが最も大きな要因になると考えられることから、オープンキャンパスにおいて、退学者を限りなくゼロにすることを想定したコミュニケーションを引き続き工夫してほしい。</p>	<p>継続 広報室</p> <p>継続 医療秘書科</p> <p>新規 医療事務科</p> <p>新規 医療事務IT科</p> <p>新規 診療情報管理科</p> <p>継続 くすり・調剤事務科</p> <p>継続 介護福祉科</p> <p>継続 看護科</p>	<p>■今年度も引き続き、オープンキャンパスでの個別相談等を通じて十分な説明を心がけ、ミスマッチのない学校選択に結びつけていく。</p> <p>■オープンキャンパスにおいては本校他学科についても理解していただくうえで、自分の意思で入学を希望していただけるよう、引き続き努める。</p> <p>■オープンキャンパスにおいては本校他学科についても理解していただくうえで、自分の意思で入学を希望していただけるよう、引き続き努める。</p>	<p>■オープンキャンパス参加者には、きめ細かく適切なコミュニケーションを行っている。個別相談では参加者に有益な情報を提供し、申し込みが必要な参加者については共有し対応している。</p> <p>■オープンキャンパスにおいては、学科のモットーを提示し学科の特徴や求める学生像についても説明をしている。懇談においても入学後の学生生活が具体的にイメージできるように対応を心がけ、ミスマッチの防止に努めている。</p> <p>■オープンキャンパスにおいては、主に広報が学科説明を担当している。懇談において、ミスマッチを防ぐよう説明に努めている。</p> <p>■オープンキャンパスでは学科の特性を十分に説明し、理解していただくうえで入学していただくように気を配っている。常に説明用パワーポイントの更新を行い、教員による丁寧な説明を心がけている。特に医療秘書科との違いについては十分に納得していただけるよう注力して説明を行っている。在学生との懇談を重視し、できるだけ生の声が届くような姿勢を意図して行っている。</p> <p>■オープンキャンパスでは学科の特性を十分に説明し、理解していただくうえで入学していただくように気を配っている。常に説明用パワーポイントの更新を行い、教員による丁寧な説明を心がけている。在学生との懇談を重視し、できるだけ生の声が届くような姿勢を意図して行っている。</p>	<p>■個別相談での十分な説明を心がけており、申し込みが必要な参加者についても共有して対応した。</p> <p>■オープンキャンパスにおいては、学科のモットーを提示し学科の特徴や求める学生像についても説明をしている。懇談においても入学後の学生生活が具体的にイメージできるように対応を心がけ、ミスマッチの防止に努めている。</p> <p>■オープンキャンパスにおいては、主に広報が学科説明を担当している。懇談において、ミスマッチを防ぐよう説明に努めている。</p> <p>■オープンキャンパスでは学科の特性を十分に説明し、理解していただくうえで入学していただくように気を配っている。常に説明用パワーポイントの更新を行い、教員による丁寧な説明を心がけている。在学生との懇談を重視し、できるだけ生の声が届くような姿勢を意図して行っている。</p> <p>■オープンキャンパスでは学科の特性を十分に説明し、理解していただくうえで入学していただくように気を配っている。常に説明用パワーポイントの更新を行い、教員による丁寧な説明を心がけている。在学生との懇談を重視し、できるだけ生の声が届くような姿勢を意図して行っている。</p>	<p>■個別相談での十分な説明を心がけており、申し込みが必要な参加者についても共有して対応した。</p> <p>■学生への面談は適宜行っているが、退学の理由はやはりやむを得ない事由によるものが多数である。引き続き、防げる退学を防ぐよう、入学前のミスマッチの防止、退学の兆候が見られる学生に対する他部署と連携した対応に努めている。なお、2年生の退学者は発生していない。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症の影響により学びの継続が困難な学生が現れている。来年度も、他部署と適宜連携し、経済的支援制度の紹介にも努めていく。</p> <p>■オープンキャンパスにおいては、主に広報が学科説明を担当した。懇談において、ミスマッチを防ぐべく、教員が説明を補足した。</p> <p>■他部署と連携した医療事務研究会において、学び直しの層の獲得についても協議を進めている。</p> <p>■退学者は発生していない。担任教員を中心とした学生の心に寄り添うきめ細やかな支援、進時での面談等によるコミュニケーションが、早期の兆候発見とその後適切な対応に結びついている。</p> <p>■現時点で入学時のミスマッチは発生していないと考えるが、引き続き学科の特性を十分に説明し、理解を深めたい。</p> <p>■退学者はと大幅に減少した。担任教員を中心とした学生の心に寄り添うきめ細やかな支援、進時での面談等によるコミュニケーションが、早期の兆候発見とその後適切な対応に結びついている。</p> <p>■現時点で入学時のミスマッチは発生していないと考えるが、引き続き学科の特性を十分に説明し、理解を深めたい。</p>
<p>6. 卒業生・社会人</p> <p>○卒業後の相談とフォロー体制の充実には、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。</p> <p>○キャリアアップを目指した転職への支援を行っていることを知らない卒業生も多いと思われるので、そのような情報も提供して、随時、学校に相談できるような受け皿を広げてほしい。</p> <p>○Gメール等を活用した、(卒業生の)状況把握が徹底できるようにネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。</p>	<p>継続 CSC</p> <p>継続 医療秘書科</p> <p>継続 医療マゼンタ科</p>	<p>■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。2021年度は、より積極的に既卒者へのアプローチを行っていた。</p> <p>■ホームページを通じた卒業生への就職支援にも力を入れ、卒業生がより分かりやすいものへ改善していきたい。</p> <p>■2020年度、Gメールを通じての転職相談等も受け付けており、実際にあっせんも行った。2021年度は、より効率的にGメールを活用し、転職者への相談やあっせんを行っていきたい。</p> <p>■卒業生の動向調査は就業事項の一つであり、卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際にはヒアリングシートを利用した動向調査をしている。これを継続していくとともに、CSCや校友会との連携を図っていく。</p> <p>■現状では、担任教員は在校生への対応を優先させてを待す。卒業生へのメール発信は負担が大きく難しい。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。</p>	<p>■既卒者の就(転)職希望者に今年度も積極的に対応している。</p> <p>■ホームページを通じた卒業生への就職支援は、現在検討中である。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p>	<p>■既卒者の就(転)職希望者に積極的に対応している。</p> <p>■ホームページを通じた卒業生への就職支援は、現在検討中である。</p> <p>■Gメールを通じての転職相談・就職あっせんを扱った。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p>	<p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生からの情報収集については、来校やメールなどにより連絡があった場合に限り学科内で情報共有を行っている。卒業生へのGメール配信は現行通り、CSCを中心として、前向きに実施していくことが現実的である。学科教員からの定期的な配信は、現在の体制では業務の負担が大きく、実施は難しい。</p>
<p>○卒業後の相談とフォロー体制の充実には、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。</p> <p>○キャリアアップを目指した転職への支援を行っていることを知らない卒業生も多いと思われるので、そのような情報も提供して、随時、学校に相談できるような受け皿を広げてほしい。</p> <p>○Gメール等を活用した、(卒業生の)状況把握が徹底できるようにネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。</p>	<p>継続 医療秘書科</p> <p>継続 医療マゼンタ科</p>	<p>■卒業生の動向調査は就業事項の一つであり、卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際にはヒアリングシートを利用した動向調査をしている。これを継続していくとともに、CSCや校友会との連携を図っていく。</p> <p>■現状では、担任教員は在校生への対応を優先させてを待す。卒業生へのメール発信は負担が大きく難しい。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。</p>	<p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p>	<p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p> <p>■卒業生キャリア報告会やオープンキャンパス等、卒業生が来校する際には積極的に動向調査を実施している。</p>	<p>■卒業生からの情報収集については、来校やメールなどにより連絡があった場合に限り学科内で情報共有を行っている。卒業生へのGメール配信は現行通り、CSCを中心として、前向きに実施していくことが現実的である。学科教員からの定期的な配信は、現在の体制では業務の負担が大きく、実施は難しい。</p>

			<p>継続 診療情報管理専攻科 ■現状では、担任教員は在校生への対応を優先せざるを得ず、卒業生へのメール発信は負担が大きく難しい。今後もCSCからの動向調査や校友会からの情報発信の機会を活用していく。同時に、オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会など卒業生が来校する機会には、積極的に意見を聞き取り参考にする。</p> <p>継続 くすり・調剤事務科 ■卒業年度の学生については、ホームカミングデーを開催して状況を収集する。それ以前の卒業生については、学科内で開催している企業説明会の際、その企業に入社した卒業生の状況を企業からヒアリングする。卒業生が企業説明会に同席しているケースもあり、その場合、企業からのヒアリングだけでなく、直接状況を収集する。</p> <p>継続 介護福祉科 ■卒業生への動向調査は現状厳しい。来校時や卒業生懇談会が主な情報交換になっているため、意見を聴取しシラバスや授業、実習に生かしていく。 ■卒業生の情報はCSCと共有している。</p> <p>継続 看護科 ■OSOと連携して、主な就職先の卒業生から、職場状況など現場で働く生の声を在校生に伝えよう機会を設けている。今年度も引き続き実施して、その際に卒業生の動向を調査する。 ■ホームカミングデーはオンラインで実施し、状況把握を継続する。更に在校生にも参加を促し卒業生の声を伝えていく。</p> <p>継続 CSC ■2020年3月卒業生に対し、2020年度4月5日において感染症の影響から、勤務形態が不安定な卒業生も出ているとみられ、Gメールによる調査を行った。今後においても卒業生の来校時やGメールを活用した調査を行っている。</p> <p>継続 校長 ○卒業生支援講座については、卒業生のニーズを把握し、内容の充実・強化に努めてほしい。</p> <p>継続 CSC ■卒業生支援講座については、卒業生の学びのニーズを把握して社会人(既卒者)対象の学び直し教育につながるためのプレゼンテーションと位置づけ、引き続き、講座企画の具体化と受講者へのサービス向上を図りたい。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインでの開催の可能性も検討したい。</p> <p>継続 CSC ■卒業生支援講座の企画についても卒業生と接する機会を通じニーズの把握に努める。 ■運営の仕方も改善の余地があり、学校全体として見直ししていきたい。</p> <p>継続 校友会事務局 ■卒業生全体からのニーズの把握には多くの費用と時間がかかるため、教職員等からのアドバイスや過去の実績をもとに検討する。</p> <p>継続 学務課 ■次年度入学者より1人1台PCを所有し、授業で使用できることを検討しているため、授業の進行を妨げないよう、総務課と連携を取りながらWi-Fiの整備を行う。 ■バリアフリーについては、教職員の意見を聞いた上で優先順位を考えながら検討していく。</p> <p>継続 CSC ■今年度は各学科と連携し、進路指導委員会においてインターンシップの開始時期を昨年年度に引き続き年明け1月1日にした。今後ともインターンシップ専攻生の負担が少なくなるようなフォロー体制を作っていく。</p> <p>継続 医療秘書科 ■今年度も新型コロナウイルス感染症が収束していない状況から、原則としてインターンシップ専攻は1月開始となった。</p> <p>継続 医療マネジメント科 ■今年度も新型コロナウイルス感染症が収束していない状況から、原則としてインターンシップ専攻は1月開始となった。</p>	<p>■オープンキャンパスや卒業生キャリア報告会、管理士業務説明会、実習代替授業の管理士体験等、卒業生が来校する機会をできる限り多く設定し、積極的に意見を聞き取り、情報を収集している。</p> <p>■今年度もオンラインによるホームカミングデー参加の申し込みがなく、開催が叶わなかった。 ■関連企業との打ち合わせの際に、その企業に就職した卒業生の現況情報の入手に努めている。</p> <p>■卒業生にオープンキャンパスへの参加を依頼し、積極的な関わりを持つようしている。情報交換の場にもなっている。 ■OSO、広報と連携し卒業生情報を共有している。</p> <p>■卒業生と在校生との交流はOSOの協力により、対面ではなくオンラインによる開催で現場の状況を伝える場を設けることができた。 ■ホームカミングデーはオンラインで実施し、少人数の参加であったが就職後の様子を聞く事ができた。また卒業生と在校生との交流ができる場を設け参加者同士、現場の話も聞くことで在校生の動機づけになった。</p> <p>■卒業生の来校時の聞き取りを引き続き実施し、Gメールを活用した調査の検討を年度末に向けて行っていく。</p> <p>■今年明けの2月末に、「2022年度診療報酬改定のポイント」をテーマとした卒業生支援講座を、対面とオンラインの併用形式で開催する準備を進めている。</p> <p>■今年度、卒業生支援講座について協力できるところはしていきたい。</p> <p>■2月に実施予定の卒業生支援講座においてアンケートを実施し、卒業生のニーズを把握する予定である。</p> <p>■学生が使用できるWi-Fiの整備を行った。 ■バリアフリーについては、まだ検討されていない。</p> <p>■今年度は各学科と連携し、進路指導委員会においてインターンシップの開始時期を昨年年度に引き続き年明け1月1日にした。その結果、インターンシップ生はここ数年で最も少なくなった。</p> <p>■今年度も新型コロナウイルス感染症が収束していない状況から、原則としてインターンシップ専攻は1月開始となった。</p> <p>■今年度も新型コロナウイルス感染症が収束していない状況から、原則としてインターンシップ専攻は1月開始となった。</p>	<p>■卒業生からの情報収集については、来校やメールなどにより連絡があった場合も学習科目で情報共有を行っている。卒業生へのGメール配信は実行通り、CSCを中心としてできる範囲で実施していることが現実的である。学科教員からの定期的な配信は、現在の体制では業務の負担が大きく、実施は難しい。</p> <p>■今年度のホームカミングデーは、4月頃の新型コロナウイルス感染状況を見て開催方法を検討する。 ■関連企業を通じて、数名の卒業生の状況を把握できた。今後も、同様の方法で、卒業生の状況を把握していく。</p> <p>■オープンキャンパスでは、卒業生Specialに参加していた卒業生と対面することができ、効果を得ることができた。</p> <p>■学内実習が多く、現場の看護師との交流が減少しているため卒業生との交流は貴重な機会となり継続して協力を得て取り組む。 ■東京都看護師養成学校協議会主催による「コロナ禍での新人看護師の動向調査」に本校の卒業生もメールを通じて調査力を発揮することができた。またその結果が雑誌「看護展望」に掲載されることで全国の看護教育・新人研修への一助となった。</p> <p>■卒業生の来校時の聞き取りを行っているが、コロナ等の影響もあり、来校する卒業生も少なかった。Gメールを活用した調査の検討を年度末に向けて行っていく。</p> <p>■2022年度診療報酬改定のポイント」をテーマとした卒業生支援講座を、対面とオンラインの併用形式で開催する。</p> <p>■卒業生支援講座について協力できるところはしていきたい。</p> <p>■実施する卒業生支援講座において参加者にアンケートを実施した。</p> <p>■学生が使用できるWi-Fiの整備を行った。 ■バリアフリーについては、まだ検討されていない。</p> <p>■今年度は各学科と連携し、進路指導委員会においてインターンシップの開始時期を昨年年度に引き続き年明け1月1日にした。その結果、インターンシップ生はここ数年で最も少なくなった。</p> <p>■1月からインターンシップ専攻を開始し、辞退者は出ていない。登校日(検校日)は昨年同様オンラインでの状況確認に切り替え、OSOとともにサポートを続けており、トラブルも起こっていない。</p> <p>■インターンシップを専攻した学生は今年度は少なく、近年は減少が続いている。2年間の学生生活において必要な学修を行ってほしい。インターンシップ制度そのものの見直しを検討する必要がある。1月からのインターンシップ専攻生は順調に継続している。コロナ感染が拡大する中、フォローアップはオンラインにより実施したが、特に支援はなかった。</p>						
6 教育環境	1. 施設・設備等	○教育に積極的に生かす必要性からの学校内のWi-Fi(無線ネットワーク)設備、また、必要に応じたバリアフリーなどの検討が引き続きの課題である。	継続 学務課	継続 CSC	継続 医療秘書科	継続 医療マネジメント科	継続 学務課	継続 広報室	継続 広報室	継続 事務局長	継続 学生委員会
	2. 学外実習、インターンシップ等	○インターンシップ専攻生のフォロー体制の強化のため、関係者による情報共有と一層の連携が引き続き望まれる。	継続 CSC	継続 医療秘書科	継続 医療マネジメント科	継続 学務課	継続 広報室	継続 広報室	継続 事務局長	継続 学生委員会	継続 学生委員会
	2. 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、引き続き所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。	継続 学務課	継続 医療秘書科	継続 医療マネジメント科	継続 学務課	継続 広報室	継続 広報室	継続 事務局長	継続 学生委員会	継続 学生委員会
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○高校における専門学校の理解や認識が必ずしも進んでいない。学科ごと、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供をもっと工夫してほしい。 <p>○新型コロナウイルス感染症禍でも選ばれることなく、しっかりと教育ができてほしいことを、募集において意識して生かしていきたい。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の対応方針や「授業開始に向けたルール」に基づき、安全に授業を安心して実施していることをアピールする。</p>	継続 広報室	継続 医療秘書科	継続 医療マネジメント科	継続 学務課	継続 広報室	継続 広報室	継続 事務局長	継続 学生委員会	継続 学生委員会
	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続 事務局長	継続 医療秘書科	継続 医療マネジメント科	継続 学務課	継続 広報室	継続 広報室	継続 事務局長	継続 学生委員会	継続 学生委員会
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続 事務局長	継続 医療秘書科	継続 医療マネジメント科	継続 学務課	継続 広報室	継続 広報室	継続 事務局長	継続 学生委員会	継続 学生委員会

10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	<p>○学業が忙しい中で、ボランティア活動の奨励、支援には難しさはあるが、人材育成の視点からも有意義なものであり、さらに仕掛けを工夫して、引き続き進めてほしい。</p> <p>○東京都専修学校各種学校協会のホームページへの情報掲載を引き続き行ってほしい。</p>	継続 学生委員会	<p>■2013年度からボランティアの登録制度を実施し、ボランティア活動を実施することを奨励しており、継続して実施する。募集の案内がある度に学生委員会メールを活用し、全学生に案内をしていたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症への感染を危惧してボランティア募集掲示板への掲示のみとした。本年度も同様とする。</p> <p>■これまでと同様に、学生生活ガイドにボランティア活動をするまでの方法について掲載し、案内する。</p> <p>■ボランティア活動の窓口を設置し、組織的な支援体制を整えている。報告があったボランティア活動については、結果を学科長会議内で共有し、活動履歴を、掲示板を利用して学生に報告する。</p> <p>■東京都専修学校各種学校協会のホームページへの情報掲載は継続しており、活動の実績があった場合、情報を更新する。</p>	<p>■学生委員会メール等を活用した積極的なボランティア募集は行わず、ボランティア活動掲示板への掲示のみ更新している。</p> <p>■ボランティア活動の案内を学生生活ガイドに掲載して、学生に周知した。</p> <p>■ボランティア実績があれば学科長会議で報告し、活動履歴をボランティア活動掲示板に掲示するが、現状において今年度の活動実績はない。</p>	<p>■学生委員会メール等を活用した積極的なボランティア募集は行わず、ボランティア活動掲示板への掲示のみ更新している。</p> <p>■ボランティア活動の案内を学生生活ガイドに掲載して、学生に周知した。</p> <p>■ボランティア実績があれば学科長会議で報告し、活動履歴をボランティア活動掲示板に掲示するが、現状において今年度の活動実績はない。</p>
--------------	-------------	---	----------	---	---	---